

令和7年度
熊本県高校魅力化コンソーシアム状況報告

小国高等学校魅力化コンソーシアム（仮）

小国町 × 南小国町 × 熊本県立小国高等学校

令和8年3月17日

1. 高校魅力化コンソーシアムの紹介

コンソーシアムの名称：小国高等学校魅力化コンソーシアム(仮)＊別案検討中
構成する市町村／学校：小国町・南小国町／熊本県立小国高等学校

①学校の概要

熊本県立小国高等学校

住所：阿蘇郡小国町宮原1887-1
電話番号：0967-46-2425
課程：全日制
学科：普通科
学級数：6
生徒数：135 *R7年度
(1学年平均換算 45名)

70%進学
国公立進学
地元就職40%(就職者の内)
総合探究が充実
地域連携機会が多い



▶ 学校の特長：県内唯一の連携型中高一貫教育校で、9割以上の生徒が地元中学校出身。「生徒一人一人を大切に、自己実現につなげる学校」を目指してそれぞれの生徒のニーズに応じた指導・支援を実践している。地域に根差した学校で、様々な場面で地域からの支援をいただいている。

▶ 現状・課題：それぞれの生徒の進路実現に向け、充実した教育活動を行っており、多くの生徒が自分の進路希望を達成している。近年生徒募集が課題となっており、令和6年度より地域みらい留学制度にも参画している。

1. 高校魅力化コンソーシアムの紹介

コンソーシアムの名称：小国高等学校魅力化コンソーシアム(仮) ＊別案検討中
構成する市町村／学校：小国町・南小国町／熊本県立小国高等学校

②市町村の概要

小国町(阿蘇郡)

面積：約137km²
人口：6,099人 (R8.3.1)
人口密度：44.5人/km²



▶ 小国町は熊本県の最北端に位置し、総面積の内約78% (107 km²) が森林で、豊かな水、そして雄大な自然に囲まれている。
2024年7月発行した新千円札の肖像画となった世界的細菌学者・北里柴三郎博士は、小国町の出身。

HP
<https://www.town.kumamoto-oguni.lg.jp>

②市町村の概要

南小国町(阿蘇郡)

面積：115.86km²
人口：3,758人 (R7.3.31)
人口密度：32.4人/km²



▶ 筑後川の源流域にあり、高冷地野菜や特産の小国杉の生産を中心に、全国的に有名な黒川温泉をはじめとして温泉地もあり、観光業も盛んな町です。
▶ 現状・課題：産業を維持していくための担い手の確保や、人口流出・少子高齢化に伴う空家等の増加などの課題がある。

HP
<https://www.town.minamioguni.lg.jp>

2. コアチームの体制（コーディネーター、高校職員、市町村職員等）

高校魅力化コンソーシアムの立ち上げに関わる主なメンバー （コアチーム：組織間）

所属	役職	コアチームにおける担当・役割
小国高校	教頭	校内連携、中高連携
小国高校	事務長	「小国高校の魅力化と永遠の発展の会」や教育委員会との事務的連携
小国町 情報政策課	主査	役場内連携、行政原資調達、支援制度設計
南小国町 まちづくり課	参事	役場内連携、行政原資調達、支援制度設計
南小国町 教育委員会事務局	審議員	中高連携
小国町 教育委員会事務局	次長兼社会教育係長	地域みらい留学における町営寮案件（制度設計等）、中高連携
コーディネーター （合同会社ogunist）	代表社員	方針提案、プロジェクトマネジメント、外部接続、地域理解

* 上記は現時点のメンバー構成・役割であり、今後この役職や所属や役割分担で構成維持されるかは未定

3. コンソーシアム設立の目的と背景、今後のビジョン

背景: 事業化開始当初(県予算検討時~)

熊本県 高校教育課
高校魅力化推進室

高校存続のための魅力化に向け、
地域行政と密接に連携し協働体制を構築するための予算ができれば
地域みらい留学にも活用できると思われる

小国高校

地域みらい留学を始めとした
高校存続のための新規業務の
委託先(コーディネーター)を
賄う予算補助がつきそうだ

地域みらい留学を始めとした
高校存続のための新規業務の
委託先(コーディネーター)を
賄う予算補助がつきそうだ

小国町
教育委員会

今までプロボノだった
役割にやっと公的な予算と
立場が認められます

南小国町
教育委員会

南小国町
町長

コーディネーター
候補

教育委員会としての職掌範囲を超えた、行政としてまちづくりに関わる包括的な案件になりそうだからjoinしてほしい

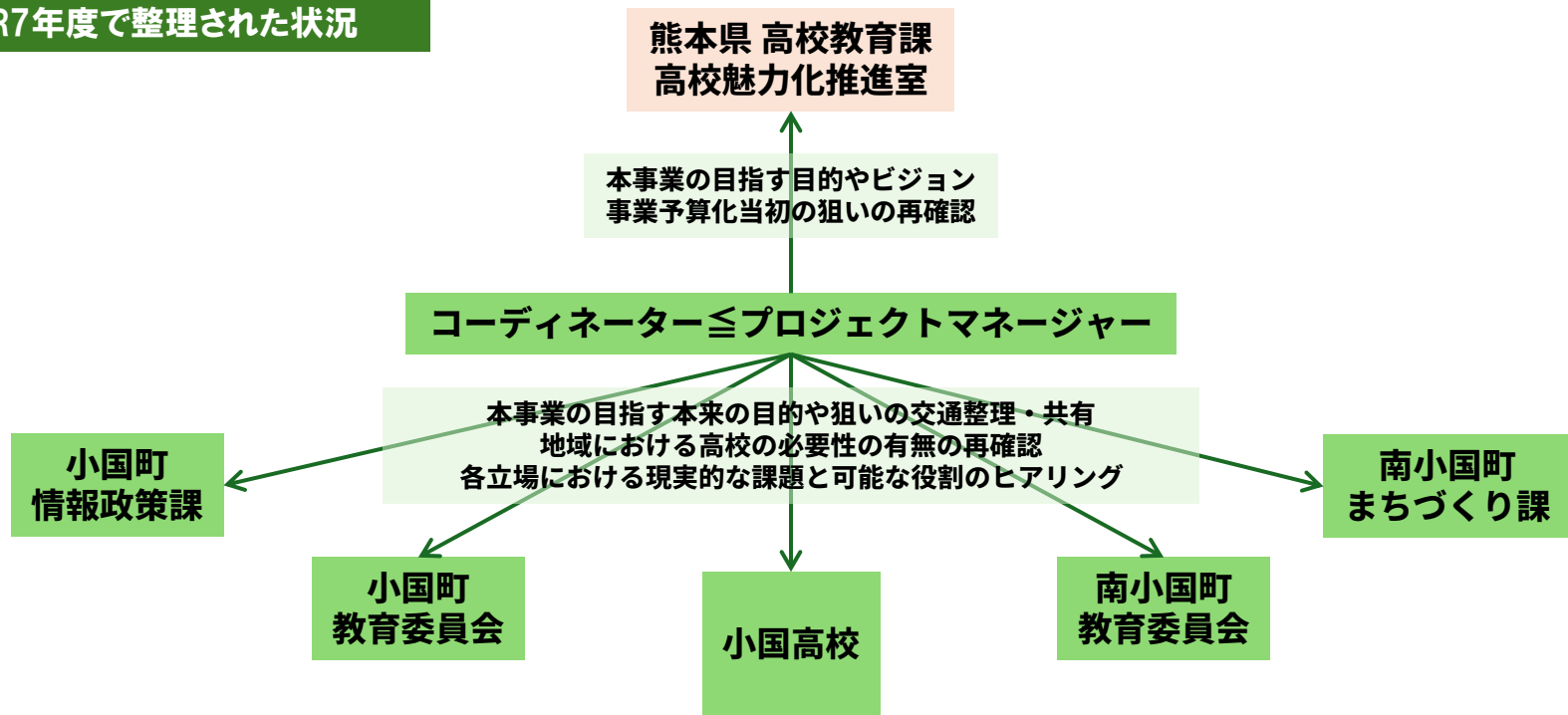
小国町
町長

南小国町
まちづくり課

小国町
情報政策課

3. コンソーシアム設立の目的と背景、今後のビジョン

背景: R7年度で整理された状況



小国高校の単独校としての存続・維持

各ポジションごとに目指す事業ビジョン(各々の利益)
高校が「ある未来」と「ない未来」の想像(利益への影響評価)

両町の可能性の共有による地域の発展的維持と教育との親和

3. コンソーシアム設立の目的と背景、今後のビジョン

コンソーシアム“設立”の目的

公的枠組みの限界を、地域の持つ可能性で超えること。

県立高校であること、違う人々が経営する違う自治体であること、立場や役割や責任の違い。その様々な違いは、時として個性となり、時として阻害となります。違いを個性や役割としてポジティブに捉えるための基盤として、二つの町だからこそ、コンソーシアムという事業体に価値が生まれると考えました。

「こうありたい」が、「そうあれる」ように。

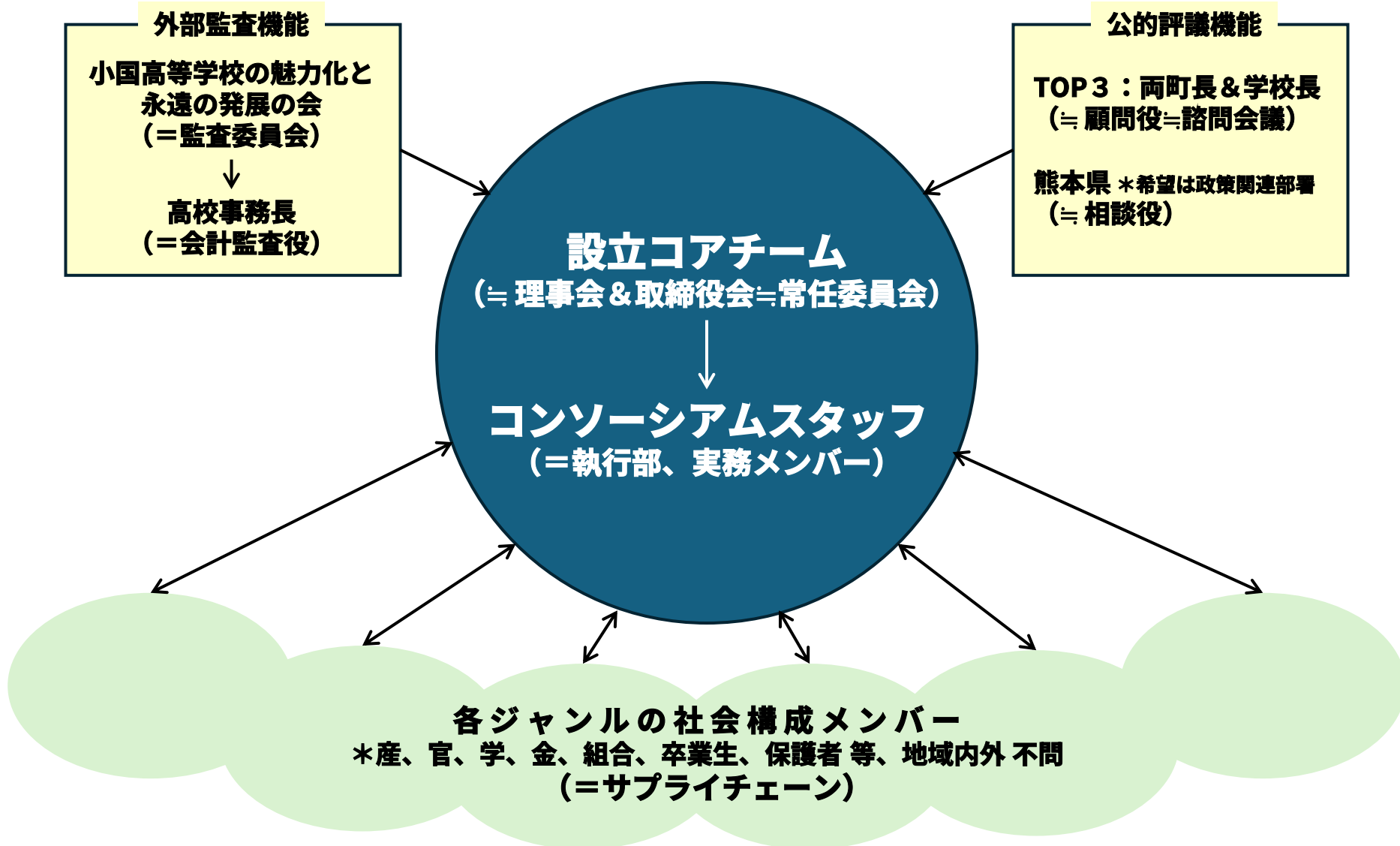
3. コンソーシアム設立の目的と背景、今後のビジョン

設立に向けた、今後のビジョン

- 1、コアチーム各メンバーの役割の明文化
- 2、コンソーシアムビジョンの設定
- 3、両町と高校によるコンソーシアム連携協定の締結
- 4、R9年度から両町でのコンソ運営負担金の予算化

4. 高校魅力化コンソーシアムの組織体制

組織図(検討中)



5. 取り組んでいることリスト（項目別）

① コアチームの体制づくり

- 1、コアチームメンバーの決定
- 2、コアチーム会議の定期的な実施
- 3、お互いの役割の共有

② コンソーシアムの体制づくり （ステークホルダーの発掘・巻き込み等含む）

- 1、組織体制図の検討
- 2、コアチーム以外のコンソメンバーの選定
- 3、卒業生 有償インターンシップ
- 4、先進事例視察：高知県嶺北高校
- 5、両町商工会や観光協会との連携mtg

③ コンソーシアムによる事業の実施

- 1、小国高生×地域事業者キャリア連携会議
（協力：両町商工会）
- 2、卒業生の進路紹介メディアの立ち上げ
（②の3のインターン生による）

④ リソース（ヒト・モノ・カネ）獲得、その他

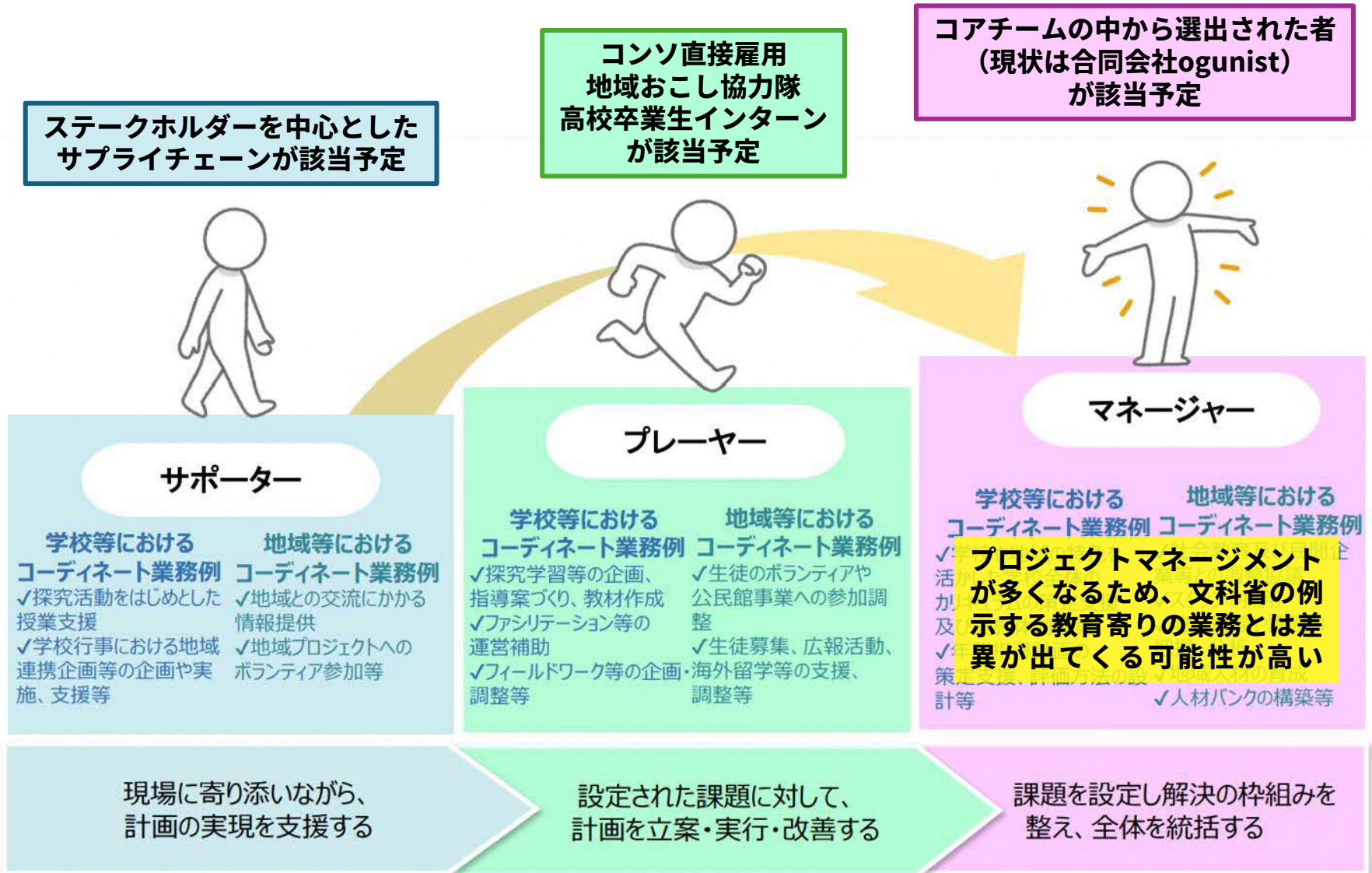
- 1、某財団助成プログラムの申請：最終で落選
- 2、某企業による無償メンターの派遣：1の成果
- 3、地域の組合との共催企画立案によるイベント経費の一部協賛（③の1）

(参考) コンソーシアムマネージャーの役割と権限

- ✓ 必要なコーディネート機能は、役割のレベルによって大きく3つに分類され、特にプレーヤークラス及びマネージャークラスのコーディネーターには、カリキュラム開発に係る専門性の高い知識と、地域人材の発掘、育成、教育資源の収集・整理等のために地域内外との継続的な連携が求められる。
- ✓ コーディネーターが非常勤やボランティア等といった配置では、必要なコーディネート機能を継続的に担うことができず、教職員が多くの役割を担う必要がある。



(小国郷 ver.) コンソーシアムマネージャーの役割と権限



6. コーディネーターの業務とスケジュール

野村 卓馬 (合同会社ogunist 代表社員)

(1) 主な業務とその割合

地域と関わる教育活動の支援	1%
地域側との連絡・調整	1%
地域資源の掘り起こし	30%
協働体制構築	60%
地域資源発掘	8%

※図5を参考(色も合わせる)に、主な業務を記載し、割合で表現

(2) おおまかな1週間のスケジュール

- ・月曜、または金曜：8時～13時高校
(職員朝礼開催曜日)
- ・適宜：
企画立案、調整、交渉、資料作成、
地域説明、議会傍聴、議員や行政との面談
*会社としての月間業務の60%超



図5：高校と地域をつなぐコーディネート機能の位置づけ

7. 令和7年度スケジュール(活動報告)

- **月1回のコアチームミーティング**
- **地域みらい留学/寮整備にかかわる条例改正及び生徒や保護者対応
(小国町教育委員会、小国高校)**
- **コーディネーターによるコアチーム所属先へのヒアリング
(5部署×1回)**
- **関係各所との会議やヒアリングや事情説明
(両町の町長・教育長・商工会・観光協会)**
- **小国高校卒業生のインターンシップ受け入れ
(コーディネーター)**
- **高知県嶺北高校及び地域協議会への視察**
- **小国高生×地域事業者 キャリア連携会議の発足**

8. 令和8年度スケジュール(活動予定)

- 1、コアチーム各メンバーの所属部署が担う役割の明文化：～R8.5月中旬
- 2、コンソーシアムビジョン及び使命・役割の設定：R8.5月中旬～下旬
→ビジョンプレスト会議の開催 *現在出席者選定中
- 3、両町と高校によるコンソーシアム連携協定の締結：R8.6月
→小国高校での共同記者会見の開催
- 4、コンソーシアムサプライチェーンの選定：R8.5～10月頃
- 5、コンソーシアム規約の制定：R8.11月初旬
- 6、両町12月議会での承認：R8.12月
- 7、コンソーシアム設立：R8.12月末
- 8、コンソーシアムに対する両町予算化の議会承認：R9.3月
- 9、コンソーシアムスタッフの公募

9. 今年度のまとめと次年度への展望（項目別）

	①コアチームの体制づくり	②コンソーシアムの体制づくり
A.目標や取り組む中で見えた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コアチームにおけるビジョン等の更なる検討が必要 ・コーディネーターおよびチームメンバーの役割が明確化されていない ・参画時点の情報齟齬が大きかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校、コーディネーター、2町間での情報共有が不足していた ・サプライチェーンメンバーの選定が未完了
B.Aに対する具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・定例mtg以外でのコミュニケーション機会を増やした（個別ヒアリングや視察等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターが学校や行政など様々な場へ頻繁に赴く ・コンソメンバーの中核を決定（コアメンバーと同様と定義）
C.取組により得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度への課題が棚卸され、共通理解が進み始めている ・ビジョン確定の必要性を全員が認識 	<ul style="list-style-type: none"> ・コアチーム内の情報共有は進んだ ・組織構成の必要性を再認識し、具体的な選定段階に入り始めた
D.残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン確定の為のタウンミーティングの開催 ・役割の完全な明文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームメンバー個人として以外の、組織間やそれらとコーディネーターとの情報共有の活発化や遅延の解消
E.今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム会議の安定且つ頻度の高い開催 ・ビジョンやアイデアに基づいた実行 	<ul style="list-style-type: none"> ・正式な協定締結を行い、学校・自治体・コーディネーターが一体となった強固なビジョン共有体制を構築

9. 今年度のまとめと次年度への展望（項目別）

	③コンソーシアムによる事業の実施	④リソース（ヒト・モノ・カネ）獲得、その他
A.目標や取り組む中で見えた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターに依頼すべき教育活動（探究、進路、留学支援等）の詳細が具体化・明確化されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム運営に係る継続的な財源の確保 ・地域みらい留学生等の住環境整備が実態として追い付いていない
B.Aに対する具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも教育活動に専従して対応するコーディネーターではないという情報の齟齬の解消のための説明を重ねている 	<ul style="list-style-type: none"> ・両町政策部局へのコンソ事業の再説明 ・寮の休日開寮（長期休業以外）の実現に向けた条例改正や予算確保の調整 ・長期休業期間中の滞在先として「里山ステイ」等の外部リソース活用を検討
C.取組により得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターの立場は情報としては共有されつつあるが、当初の先入観との違いが大きく成果は芳しくない 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報齟齬があったことが判明し、本来の目的を捉えてもらえた ・小国町の行政及び議会で寮や留学受け入れの課題が認知された
D.残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の求めるコーディネーターの役割とコンソーシアム構築事業及びコンソーシアム運営事業のコーディネーターの役割の違いを教育現場が認識できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営財源の具体的な確保策の決定 ・寮以外の滞在手段（里山ステイ等）の具体的な受け入れ体制の構築
E.今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学校管理職とコーディネーター業務の定義の共有や棚卸を行い、それを公式に学内で公表周知してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・政策部局が行政原資の確保を中心に担う ・町内へのアンケート実施等により実態に把握に努め、行政が動きやすい情報を収集する

コンソーシアム立ち上げに向けた実践事例①

小国高校卒業生インターンシップの有償受け入れ 受入時期：R7年9月15～19日



◆背景、取り組みの概要

コンソーシアムを含む地域事業の持続可能性を高めるためには、次世代の若者をいかに巻き込むかが鍵となります。特に、高校の魅力化において最も重要なターゲットは、現役高校生に近い「その前後の世代」です。彼らに対し、単なるボランティアではなく、対価の発生する「仕事」や「責任ある役割」として故郷に関わる経験を早期に提供することで、「卒業後も故郷とプロフェッショナルな関係を築ける」という強い印象を定着させるべく本プロジェクトを実施

◆参加者/対象者

小国高校卒業生で20代以下、継続した関与が期待できる人材
→ 熊本県立大学3年生 Sさん

◆CNとしての関わり

- ・インターンシップの発案
- ・プログラム設計、費用捻出
- ・契約関係の書面整備～法手続き確認
- ・インターン生本人のキャリア接続の構築

◆実施の結果・成果

- ・**卒業後の地域への還流実現**：高校卒業して地域を離れた後でも、地域事業者が主体となり具体的な自社事業を通じて、次世代が母校や地域に貢献できる、人材と価値の「自前での還流実証モデル」を構築
- ・**自律的なプロジェクトの創出**：本人のキャリア接続を重視したプログラム設計により、インターン生の自発的な案による「高校生のための新規事業」が立ち上がる仕組みへ進化
- ・**若年層のマインドセット変容**：在学時の原体験が地域への意識に影響することを証明し、人材還流の基盤として「魅力ある高校」の重要性を実証
- ・**地域経営のインキュベーション始動**：コンソーシアム本来の柔軟な組織体を活かし、新たな地域事業が地域が輩出する人材によって次々と生まれる土壌づくりの第一歩を確立

コンソーシアム立ち上げに向けた実践事例②

卒業生の声プロジェクト（メディア制作）：完成予定 R8年春



◆参加者/対象者

小国高校卒業生で様々なキャリア選択をした20代
→インターン生Sさんを中心にその同級生5名
(国公立大、私立大、専門→デザイン会社勤務、地元就職)

◆CNとしての関わり

- ・企画立案の伴走
- ・実現プロセスの支援（地域在住または出身の各プロを招聘しチームアップ）
- ・制作全体の監督
- ・資金捻出

◆実施の結果・成果 等

- ・**卒業生のキャリアに合わせた活躍の場を実現**：自身の専門性やバックグラウンドを活かして故郷のプロジェクトに参画する具体的な「活躍モデル」を提示
- ・**地域と離れていても機能する接点づくり**：地域外にいる卒業生が、現拠点を維持しつつ地域の現状や課題に持続的に関与できる接点構築
- ・**進路イメージの具体化**：多様な「高校卒業後のライフスタイル」を提示し、現役高校生や保護者の不安を解消するリソースの創出
- ・**地域内への情報流通**：学校内だけで完結しない「地域ぐるみの進路支援」の土台構築
- ・**プロと若者による地域資源（ヒト）の再編**：在住または出身のプロフェッショナルを招聘しインターン生を中心とした若手チームと掛け合わせ、質の高いメディア制作を行うクリエイティブチームを編成

◆背景、取り組みの概要

事例①のインターン時にインターン生が立案
地元には大学生や専門学生を始め、
20歳前後がほぼおらず、高校から先の進路イメージが
全く分からなかった経験を踏まえ、
高校卒業後にどのような進路を選び、
それぞれがどのようなライフスタイルを実践し
生きているのかを雑誌媒体で発行し
地域内の高校生以下やその保護者が触れられる
場所に配布設置する

コンソーシアム立ち上げに向けた実践事例 ③

小国高生×地域事業者 キャリア連携会議 開催：R8年2月18日

「若い世代が探している働き方」
「小国高校生が描くキャリアイメージ」
この3年で大きく変わってきています

地域で活躍したい若者、実はたくさんいるんです！

第1回

小国高生×地域事業者 キャリア連携会議2026

- 1、小国高校や全国の高卒進路状況（統計等）
- 2、現役小国高生の声（高3：地元就職内定者）
- 3、高卒新人採用のルール等

2026

2.18

水曜日

1100-1230

小国町商工会 2階

予約不要
&
参加無料

主催：小国高校魅力化コンソーシアム(仮) ＊小国町、南小国町、小国高校による共同事業
お問い合わせ：合同会社ogunist 090-7161-9240(野村)

協力：小国町商工会、南小国町商工会、熊本県立小国高等学校

◆背景、取り組みの概要

小国高校は小中学校と比べ、地域と距離感があり身近な存在ではないのが現状。よって「小国高生＝地域の担い手」という意識が住民には殆どない。その意識を見直し、小国高校が地域経済の「魅力的な人材輩出」のキーポイントと実感してもらうための意識変容を企図。「高校のキャリア支援員による採用や進路状況のガイダンス」「地元就職内定した高校生とのトークライブ」を実施した。

◆参加者/対象者

商工会会員、その他事業者や地域住民→当日は20名以上の満席

◆CNとしての関わり

- ・企画立案、構成
- ・学校や商工会等との折衝
- ・資金捻出
- ・当日運営

◆実施の結果・成果 等

- ・採用プロセスのプラットフォーム化：高卒採用を望みながら接点を持てなかった事業者に対し、コンソが機会提供し高い評価を獲得
- ・高校生のリアルな視点の可視化：地元就職内定者による登壇を通じ、事業者が小国高生の現状やキャリアに対する本音を直接理解する場を創出
- ・生徒から地域への意志表明：高校生が自身の将来や想いを地域社会に対して公式に発信する、自己有用感を高める貴重な機会を提供
- ・広報資産のデジタルアーカイブ化：地元メディアと連携した全編収録により、今後活用できるアーカイブ素材を確保
- ・小国高校生に対する認識のアップデート：生徒を「将来出ていく人」ではなく、「地元を愛し、将来的に還流しうる優秀な地域人材」へと事業者の認識を刷新